

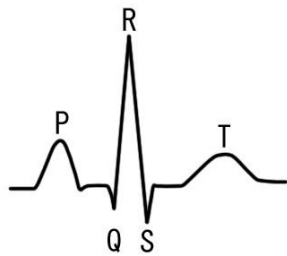
人間と機械・環境とのヒューマン・インターフェース

キーワード[快適, 安全, 人間中心設計]

教授 本多 薫



音楽を聴きながらのPC操作が作業に与える影響や生体に与える負担・疲労を調べる実験風景



心電図波形

作業や環境が生体に与える負担・疲労を生理的客観指標によって評価する手法には、活動している身体から発射される生体情報(心電図、筋電、眼球運動・視線移動、フリッカー値、脳波など)をモニターする方法があります。

内容:

現在の製品では、人間特性を理解し、快適(見やすさ、使いやすさ、疲れにくさ)、安全などを配慮した製品設計が求められています(人間中心設計)。「モニター画面に表示される情報の見やすさ、見つけやすさは、情報が表示される位置で違いはあるの?」、「タブレットで小説(長文)などを読む場合には、画面をスクロールさせる操作は有効なの?」、「相手の顔が見えないネットコミュニケーション(SNS)は対人ストレスが高いの?」、「パソコンを利用した学習と紙の教科書を用いた学習では学習効果に違いはあるの?」、「音楽を聴きながら文章を読むと読解・記憶力は低下するのでは?」、「昼間と夜間でネットコミュニケーションに違いはあるの?」などを人間と機械・環境とのヒューマン・インターフェースについて、情報科学・人間工学の視点から研究しています。

アピールポイント:

情報社会が進展する中で、快適で安全な人間と情報機器とのコミュニケーションとは何かを考えています。

所属: 山形大学人文社会科学部
分野: 情報科学、人間工学
専門: ヒューマン・インターフェース

E-mail : honda[at]human.kj.yamagata-u.ac.jp

Tel :

Fax : 023-628-4212

HP : <http://www-h.yamagata-u.ac.jp/~honda/>

